

仙台空港新環境プラン

仙台空港新エコエアポート協議会

近年、気候変動をはじめとする環境問題の顕在化にともない、空港においても地球環境への配慮が求められています。また、空港は地域環境にも大きな影響を及ぼしています。

このような中、仙台空港の環境保全に関しては、2004年7月に国土交通省東京航空局仙台空港事務所を中心として立ち上げた「仙台空港エコエアポート協議会」が、「仙台空港環境計画」を取りまとめて対応してきました。計画の期間中である2011年には東日本大震災が発生し、震災後は空港を取り巻く環境が大きく変化しています。

●仙台空港新環境プラン策定について

2016年7月、仙台国際空港株式会社が仙台空港の運営を開始した事に伴い、同年10月に新たな協議会（仙台空港新エコエアポート協議会）を立ち上げました。

新協議会を組織した時点では、旧協議会が策定した計画を一旦引き継ぐこととしましたが、経年変化や震災後の環境変化に積極的に対応するため、2017年9月、「仙台空港新環境プラン」を策定いたしました。

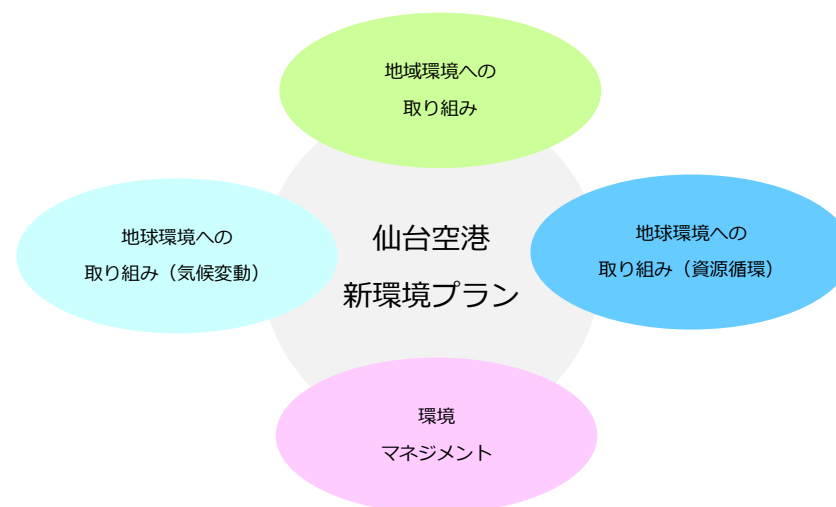
これにより、仙台空港は、旅客数と貨物量を増やすことを通じて、東北全体の経済活性化に最大限の貢献をするとともに、地域と地球環境への負荷を継続的に改善し、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

●計画の構成

仙台空港新環境プランは、地域環境への負荷軽減に向けた「地域環境への取り組み」、地球環境への負荷軽減に向けた「地球環境への取り組み（資源循環）」、「地球環境への取り組み（気候変動）」、それらを継続的に推進するための「環境マネジメント」の4つのカテゴリで構成しています。

各構成毎に取組項目を設定し、仙台空港新エコエアポート協議会の構成機関が掲げた施策を積極的に推進していきます。

●新環境プランの構成



●計画期間と目標設定

新環境プランの計画期間は、2026年までの10年間とします。

新環境プランの目標は、「2026年度（計画終了時）の旅客1人当たり換算でのCO₂排出量を2016年度（基準年）と比較して削減する」とします。

計画期間中は、空港を取り巻く環境の変化や施策の技術動向等を勘案し、必要に応じて目標の見直しを随時行います。

●仙台空港新エコエアポート協議会

この協議会は、仙台空港内で活動を行う事業者及び行政機関により構成されています。

エコエアポートの実現にむけて、環境問題を正しく理解・共有し、各構成機関毎または構成機関同士が連携して仙台空港新環境プランの取り組みを推進します。

協議会構成員（順不同）※2022年11月現在

仙台国際空港株式会社

国土交通省 東京航空局 仙台空港事務所

日本航空株式会社 仙台空港所

全日本空輸株式会社 仙台空港所

IBEXエアラインズ株式会社 仙台事業所

株式会社AIRDO 仙台空港所

Peach Aviation株式会社 仙台空港所

スカイマーク株式会社 仙台空港支店

株式会社フジドリームエアラインズ 仙台空港支店

株式会社ジャムコ

東北エアサービス株式会社

東邦航空株式会社 東北事業所

オールニッポンヘリコプター株式会社 仙台基地

株式会社パシフィック

国土交通省 東北地方整備局 塩釜港湾・空港整備事務所

厚生労働省 仙台検疫所 仙台空港検疫所支所

農林水産省 動物検疫所 北海道・東北支所 仙台空港出張所

農林水産省 横浜植物防疫所 塩釜支所 仙台空港分室

横浜税関 仙台空港税関支署

法務省 出入国在留管理庁 仙台出入国在留管理局 仙台空港出張所

国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所岩沼分室

国土交通省 航空保安大学校 岩沼研修センター

独立行政法人 航空大学校 仙台分校

海上保安庁 第二管区海上保安本部 仙台航空基地

陸上自衛隊霞目駐屯地 岩沼訓練場

宮城県 土木部 空港臨空地域課

名取市 企画部 政策企画課

岩沼市 総務部 政策企画課

仙台空港新環境プラン

2022年11月現在

区 分	取組項目	計画期間中の諸施策
地域環境への取り組み 空港周辺環境への負荷を軽減します。	航空機騒音の監視・公表	・航空機騒音のモニタリングと結果公表 <個々の騒音軽減策の実施> ・小型訓練機による飛行訓練の分散化 ・エアライン乗員訓練プログラムにおける、シミュレーター訓練化促進による実機使用訓練の見直し
	排水の水質保全	・環境に配慮した融雪剤の使用 ・防除氷剤の適正使用および回収・処理の実施 ・油分除去後の排水実施
	地域の環境保全活動への支援	・海岸林の再生支援 ・「千年希望の丘」の整備支援 ・教育機関が実施する上空のCO2濃度観測への協力
地球環境への取り組み (気候変動) エネルギー削減と異常気象への対応を行い、地球環境への負荷を軽減します。	温室効果ガス排出量削減	・低公害車の導入促進 ・エコドライブの推進 ・従業員の公共交通機関利用促進
	エネルギー使用削減	・空港関連施設における省エネ活動の推進 ・再生可能エネルギーの活用 ・航空灯火のLED化推進 ・空港内照明のLED化推進 ・空港内及び隣接地の自転車利用促進
	異常気象時の対応	・異常気象時における点検・安全確保の推進
地球環境への取り組み (資源循環) 廃棄物の再使用・再生利用を行い、地球環境への負荷を軽減します。	資源の循環利用	・空港関連施設における一般廃棄物排出量削減及びリサイクル推進 ・空港から発生する産業廃棄物のリサイクル推進 ・空港内事業活動で使用した物品のリユース推進 ・お客様、従業員など空港利用者に対する意識啓発活動の推進 ・グリーン調達推進 ・中水（雨水）使用による上水使用量削減 ・バイオマス素材25%以上配合のレジ袋、FSC R認証素材の紙袋への切替
環境マネジメントの実施 環境計画を継続的に推進します。	環境マネジメントの推進	・設備アセスメントの実施 ・環境配慮技術・施策の導入促進
	ステークホルダーとの対話と協議	・エコエアポート協議会の開催 ・各種会議への環境取り組みの共有